

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 253

2016年

11～12月号

行 事 案 内

11月手賀沼探鳥会

期 日 11月13日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 秋も深まりカモ類が戻り、手賀沼は野鳥が賑わいを見せる季節になります。例年だとマガモ、オカヨシガモ、コガモ、ホシハジロなどのカモ類に加え、オオジュリン、ミサゴなども姿を見せてくれます。久しぶりの冬鳥との出会いを楽しみましょう。
解 散 正午
担 当 小澤

12月手賀沼探鳥会

期 日 12月11日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 本年最後の定例探鳥会です。手賀沼では、冬鳥の水鳥がそろい、猛禽類は、ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサなどが見られるでしょう。昨年12月の探鳥会では、42種が認められましたが、本年は、さらに多くの鳥が認められることを期待しましょう。
解 散 正午
担 当 船津

11月、12月ピオトープ調査

期 日 11月3日(木・祝日) 雨天延期
12月1日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分
案 内 11-12月は冬鳥(昨年11月アリスイ、カンムリカイツブリ、コガモ、ユリカモメ、12月ツグミ)が観察出来ました。植物はサザンカの花、カラタチ、ユズリハ、クス、ハゼ、シャリンバイ、ラクウショウなどの実、セイタカアワダチソウの花、ヨシ、ヒメガマの花穂等になります。11月は蝶、蜻蛉などの昆虫が多く見られますが、12月になると急に見られなくなり、斜面林の紅葉が始まります。昨年11月は20種、12月は16種の野鳥を観察しました。晩秋、初冬の雰囲気を感じながらピオトープ周辺を探鳥してみませんか。参加希望の方は下記までご連絡下さい。
解 散 午前11時30分
担 当 鈴木静治
Tel : 080-3121-4757

11月、12月手賀沼定点カウント

期 日 11月4日(金) 雨天延期
12月2日(金) 雨天延期

集 合 我孫子市役所 午前9時
解 散 正午予定
担 当 金子雅幸、船津登、桑森亮
連絡先 桑森亮
Tel : 04-7182-3149

担 当 相良、鈴木(静)

行徳・江戸川探鳥会

期 日 11月23日(水・祝日) 雨天中止
(会報 No.251 行事計画では11月27日
でしたが行徳鳥獣保護区での行事と重
なり11月23日に変更しました)
定 員 20名
集 合 我孫子駅改札口 午前7時50分
または行徳駅 午前9時
案 内 江戸川(放水路)河口、行徳鳥獣保護
区でカイツブリ、サギ、カモ、ウミ
アイサ、タカ、ハヤブサ、カモメ、
越冬シギチ類などを観察してみま
しょう。行徳野鳥病院も見学します。
なお、行徳鳥獣保護区はぬかるみが
多いので長靴が必要で、行徳野鳥観
察舎スタッフの案内でまとまって
行動します。この探鳥コースにはコ
ンビニがありませんので、昼食など
は持参または途中の駅中・前のコン
ビニで買い求め下さい。またトイレ
が少ないのでトイレのある場所で
早めに済ますようお願いします。
同保護区の中にはトイレがありま
せん。入場前に済ませてください。
持 物 観察用具、雨具、長靴、防寒具、昼
食、飲物
交 通 電車： 我孫子 8:02 8:15 新松戸
8:19 8:34 西船橋 8:42 8:50 行徳
行徳駅---江戸川河口、江戸川河口---
行徳保護区間はバスで移動(バス代
360円)
解 散 15:30頃、現地解散
(帰りは行徳保護区近くの行徳高校
前より新浦安駅、市川塩浜駅行きの
バスが便利)
申 込 鈴木静治まで
Tel : 080-3121-4757

小見川・神之池・江戸崎探鳥会

期 日 12月25日(水・祝日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 正月の新春探鳥会は、第一日曜日が
三が日と重なるために、2年連続で
年末開催となります。探鳥コースは
例年どおり、小見川の葭原~神之池
(神栖市)~江戸崎(稲敷市稲波干
拓地)です。猛禽類から水鳥まで多
くの種類を楽しめ、例年50種以上
が記録されています。小見川のタカ
類、神之池のミコアイサ・カモ類た
ち、江戸崎では年々数が増えている
オオヒシクイやほかの鳥たちとの
思わぬ出会いに期待しましょう。
交 通 自家用車分乗、便乗者は一人1,500
円を運転者にお渡しください。申込
の際、自家用車を提供可能な方はそ
の旨ご連絡ください。
持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途
中購入可能)
申 込 松田幸保まで
Tel/Fax : 04-7182-8307
担 当 松田、小澤

ジャパンバードフェスティバル (J B F 2 0 1 6)

期 日 11月5日(土) 9:30~16:00
6日(日) 9:30~15:00
会 場 手賀沼親水広場、鳥博広場(鳥の博
物館駐車場、アビスタ周辺その他
案 内 メイン会場は手賀沼親水広場です
が、今回は水の館が改修工事中で同
施設と周辺が使用できないため、一
部の展示・販売等がアビスタ周辺に
変わります。光学機器関係は親水広
場、学生・NPO 団体は鳥博広場、
講演・作品展はアビスタなどの予定。
当会の出展は、鳥博広場のテント、
カッパ噴水前展望デッキの湖畔パ

ードウォッチングのテント、手賀沼
漁協棧橋付近の船上バードウォッ
チング受付テントの3か所です。

広 報 JBF 全体のイベントについては、
広報あびこの10月、11月号をご覧ください。
<鳥博広場テント>

「パネル展示」
「野鳥のぬり絵とパタパタ工作」
「庭に鳥を呼ぶ」

<カッパ噴水前展望デッキとテント>

「湖畔バードウォッチング」

<手賀沼漁協棧橋付近の受付テント>

「船上バードウォッチング」

<当会の会場設営と当日参加のお願い>

当会出展の設営は、前日11月4日(金)
の13時30分から鳥博広場の当会テント
にご参集下さい。その後、各担当の出展
場所へ移動し、設営作業を行います。

11月5日(土)9時～16時 各出展場所へ

11月6日(日)9時～15時 各出展場所へ

*会員の皆様の積極的なご参加とご協力をお待ちしています。

芋煮会&手賀沼遊歩道探鳥会

34回目の芋煮会、今年も多くの方が集い「見て、飲んで、食べて、語らって」大いに盛り上げ楽しみましょう！皆様の参加を、心よりお待ちしております。

この芋煮会、昨年までは各奉行役を役員が分担して担って来ましたが、今年度からはその一部(10名程度)を一般会員の皆様にもお手伝いを頂けたら...と考えて居ります。是非、奉行役に手を挙げて頂きたいと思ひます。

又、同日開催の探鳥会は距離やトイレ事情も考慮し、手賀沼遊歩道を鳥の博物館から会場までと変更致しました。冬鳥を楽しみながら会場へ向かう探鳥組か、会場へ直接出向く直行組かを決めた上で申し込み願ひます。

期 日 12月18日(日) 雨天中止

集 合 探鳥組：鳥の博物館前 駐車場脇
午前9時30分

直行組：会場へ午前11時まで

会 場 五本松公園 ふれあいキャンプ場

参加費 大人1500円、小・中学生500円、

幼児無料

持 参 汁椀や箸・プレートを持参されると、
他者と区別がついて便利です。
酒類の持ち込みなどは大歓迎です。

申 込 金子雅幸まで
Tel：04-7133-6944

*奉行役を請け負って頂ける方は、申し込みの際お申し出下さい。

*定例探鳥会の折にも、申し込みを承ります。

*各奉行の皆様は、改めての申し込みは不要です。

*締 切 12月12日(月)まで

手賀沼親子ふれあい探鳥会

期 日 12月3日(土) 雨天中止

集 合 我孫子駅北口ふれあい広場前
午前8時45分(20名：バスで移動)

または 手賀の丘公園どんぐりの家前
午前9時15分(20名)

解 散 正午

案 内 一般市民を対象にして当会会員が
山野と水辺の鳥を案内し、子供達に
探鳥の楽しみを伝える親子探鳥会
です。

参加者全員に「カラー写真入り野鳥
チェックリスト」を進呈。

更に野鳥ビンゴゲームで特製野鳥
カードや野鳥ぬり絵セットをゲッ
トできます。

コースは手賀の丘公園～手賀沼南
岸～手賀の丘公園です。

会員の皆様もお子さんやお孫さん
を誘ってぜひご参加ください！

参加費 無料

定 員 40名(小学生以下は保護者同伴)

申 込 野口隆也まで

Tel/Fax：04-7163-7898

担 当 間野、古出、松本、相良、船津、
北崎、野口(隆)

第21回 野鳥サロン

本年最後の野鳥サロンを次の通り開催します。師走も近く、忙しいと思いますが、みんなと楽しく語り合いませんか。みなさんの参加をお待ちしております。

テーマ

モンゴルの野鳥 [野口(隆)]
会報の「鳥だより」の案内 [松本]
野鳥の身近なホットスポット [船津]

日時 11月30日(水) 9:30~11:30
場所 我孫子北近隣センター
並木本館 第3会議室
会費 一人 300円(茶菓子代)
申込 船津登まで
Tel: 090-7267-3728
担当 野口隆也、松本勝英、船津登

統一クリーンデイふれあい清掃

手賀沼ふれあい清掃と美手連統一クリーンデイに参加しましょう!

期日 12月4日(日)
雨天の場合 12月11日(日)に延期
雨天延期の確認は当日7時30分以降テレドーム(0180-991173)で確認下さい。

集合 手賀沼公園多目的広場 8時45分

行事予定 8:45~9:00 受付
9:00~9:15 開会式
9:15~10:30 清掃
10:30~11:00 閉会式・参加記念品の配布、ジャンケン大会
清掃作業コース 「根戸新田Bコース」手賀沼公園~根戸新田(沼側歩道下)
なお、美手連がナガエツルノゲイトウ駆除作業を同日同時刻行います。その作業に参加希望される方は小澤まで個別に連絡をお願いいたします。

連絡先 携帯: 090-4756-4607

11月役員会案内

日時 11月13日(日) 13:00~16:00
場所 根戸近隣センター 大会議室
議題
2017年度上期行事予定について
会報254号掲載予定記事について
芋煮会と手賀沼遊歩道探鳥会について
第2四半期会計報告について
第22回「野鳥サロン」について
報告事項
・あびこ市民活動メッセ出展実施結果
・JBF2016出展等実施報告
・対外対応状況ほか
その他(議題のある場合は桑森までご連絡ください)

行事報告

8月手賀沼探鳥会

日時 2016.8.14 8:00~10:45
曇りのち晴 弱風 26

サマータイム制適用の必要がなさそうなしのぎやすい朝だった。ミンミンゼミの声がかましい中、上空のオオタカとそれをモビ

ングするツバメの群れが出発前の我々を楽しませてくれた。

到着したヒドリ橋の湾処は草が刈られて見やすくなっていた。目立つナガエツルノゲイトウのそばでは、再営巣なのか?カイツブリのペアが巣材を運んでいた。飛ぶヨシゴイとイソシギの姿も見られた。96番鉄塔のハ

ヤブサを眺めながら第2 機場へ向かうと、オオヨシキリの声と姿が。第2 機場では、カワセミが魚を捕る姿を見せて歓待してくれた。

トイレ休憩のあとは、染井入落到に駐車しサギ類を観察した。2 度の下見結果が思わしくなかったため、浅間橋には行かず早めの鳥合わせとした。認めた鳥 28 種は、くしくも昨年 7・8・9 月と同じである！

< 認めた鳥 > コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、イソシギ、オオタカ、カワセミ、ハヤブサ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計 28 種
番外 カワラバト

< 参加者 > 船津登、西嶋昭生、間野吉幸、常盤孝義、相良直己、田丸喜昭、小玉文夫、野口隆也、鈴木静治、古出洋子、村瀬和則、桑森亮、野倉元雄、千葉洋、肥後邦彦、金子雅幸、木村稔、小林博之、小林美智子、西城猛、松本勝英（担当）松田幸保 計 22 名

8 月手賀沼定点カウント

調査日時 2016.8.8 9:00 ~ 11:30
曇り時々薄日 東風 31

何に驚いたか、突然飛び立ち上空を乱舞するゴイサギの群れが上沼で観察された。前年よりカワウが減りカルガモが増えたが、上記のゴイサギの分だけトータル数は増えた。全般に鳥の声は少ないが、セッカとホオジロのみが楽しませてくれた。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	10	3	13
カルガモ	11	33	44
カイツブリ	0	8	8
カワウ	28	37	65
ゴイサギ	20	1	21
アオサギ	2	8	10
ダイサギ	1	4	5
チュウサギ	0	14	14
コサギ	1	1	2

オバン	2	2	4
合計	75	111	186

< 調査者 > 桑森亮、船津登、金子雅幸 計 3 名

8 月手賀沼ビオトープ調査

調査日時 2016.8.4 8:30 ~ 10:35
晴れ 無 ~ 微風 33 ~ 34

猛暑であったが、観察した野鳥の種数 19 はここ十年間で最大で、蝶、蜻蛉も多くの種がみられた。探鳥、探蝶会でした。沼には鳥がほとんどいない。岸近くのコブハクチョウ、カワウが見られ、カイツブリの鳴き声が聞こえる程度。水田ではチュウサギが畦で餌獲り、道端の叢でホオジロが虫を啜る。ビオトープの池でアオサギ、ダイサギが餌獲り、カルガモの群れが泳ぎ、カワセミが飛ぶ。これらの上をスズメ、ツバメ、セッカ、カラス、ヒヨドリが飛ぶ。上空でトビが 4 羽のハシブトガラスにモビングされた。また調査地点近くの上空でトビを含め 5 羽のタカ柱を見た。なおコムラサキ、ゴマダラチョウ、コガネムシがハルニレの枝の樹液に群がり吸う様子も観察しました。観察した野鳥 19 種 74 羽、他に木の花 2 種、実 7 種、草の花 11 種、花穂 8 種、蛙 2 種、蝶 13 種、蜂 3 種、蝉 2 種、バッタ 3 種、カメムシ 6 種、甲虫 6 種、蜘蛛 7 種、モグラ(盛り土)を観察しました。

< 認めた鳥 > コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、セッカ、スズメ、ホオジロ 計 19 種 74 羽

< 調査者 > 鈴木静治、間野吉幸、船津登、池田日出夫、金子雅幸 計 5 名

9 月手賀沼探鳥会

日時 2016.9.11 8:20 ~ 11:00
小雨のち曇り 27

前日の残暑(晴天)がウソのような秋雨前線の停滞による雨天でした。サマータイムで

したが、20分ほど様子見していると、雲行きが、東寄りに向かっているので実施に踏み切りました。ヒドリ橋で、95、96号鉄塔それぞれにハヤブサを認める吉兆あり、北千葉導水まで歩くのを止め、じっくりと彼ら(?)を堪能しました。まもなく2羽とも狩りに出掛けてしまいましたが、手前の横斑がハッキリした1羽が戻ってきて朝食の様子でした。

続いて、北千葉導水では、葦原でオオヨシキリの声だけでしたが、なんと久し振りのミサゴの飛来に加え、チュウヒがすれ違うように対面飛翔するのに眼前で出会える幸運。夜半からの雨が上がり急な晴れ間で、一気に鳥たちの活動が始まった感がしました。

時間に追われ、道の駅もそこそこに染井入落では、タイミングよく到着直後、ホシゴイが舞い降りてくれた。ポンプ小屋横では、20数羽のカルガモの中に、2羽マガモのエクリプスが混入していました。周囲のフェンスではカワセミがポーズ。周辺の稲田は、チュウサギがゆったりと採餌し、その上をトビがゆっくりと輪を描いてくれた。

お立ち台、浅間橋は省略し帰路についた。
 <認めた鳥> コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、ミサゴ、トビ、チュウヒ、カワセミ、コゲラ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ 計27種 番外 カワラバト

<参加者> 野口隆也、船津登、間野吉幸、桑森亮、西城猛、木村稔、鈴木光枝、田丸喜昭、千葉洋(担当)松本勝英 計10名

9月手賀沼定点カウント

日時 2016.9.3 9:00~11:30
 曇り後晴れ やや強い風 28

約半年ぶりに手賀沼の水位が下がり、少し干潟の出現があったが鳥数はあまり増えなかった。

今日は、水面から顔だけを出してじっと潜んでいるカイツブリと、足を折りたたんで座り込んだアオサギの珍しい2つの場面が見られた。

今年は8月末からノスリが見られているが、

同一個体なのか飛来が早いのか本日も観察できた。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	12	18	30
カルガモ	7	6	13
カイツブリ	4	5	9
カワウ	42	37	79
ゴイサギ	2	0	2
アオサギ	8	3	11
ダイサギ	14	11	25
チュウサギ	3	34	37
コサギ	3	5	8
オオバン	2	0	2
オオバン	2	0	2
合計	99	119	218

<調査者> 桑森亮、船津登、金子雅幸 計3名

9月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2016.9.1 8:30~10:40
 快晴 無風 28~32

沼の中にはほとんど鳥が見られないが、沼岸近くをアオサギ、カワウ、ダイサギ、ツバメが飛ぶ。水田は稲が実り、畦でチュウサギ、ハシボソガラスが餌探し、セッカがその上を囀りながら飛び回る。ピオトープの池ではカルガモが泳ぎ、コサギが杭に止まる。オオヨシキリのグゼリが聞こえました。樹の間をヒヨドリ、シジュウカラ、ハシボソガラスが飛び、樹上にはチュウサギ、ホオジロが止まる。上空にはツバメ、トビが飛ぶ。ピオトープではツクツクボウシが鳴き、遠く斜面林ではミンミンゼミの鳴き声が聞こえました。蝶、蜻蛉などの多くの昆虫も観察出来、スズムシなど秋の虫の声も聞こえました。観察した野鳥16種61羽。なお調査地点周辺でノスリが上空を飛ぶのを見ました。他に木の花2種、実4種、野草の花16種、花穂10種、蝉1種、蝶17種、蛾1種、蜻蛉5種、蜂2種、蠅1種、甲虫3種、カメムシ3種、バッタ4種、蜘蛛2種、蛙2種、蜥蜴1種、小動物1種も観察出来ました。

<認めた鳥> カルガモ、カワウ、アオサギ、

ダイサギ、チュウサギ、コサギ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、セッカ、スズメ、ホオジロ 計 16 種 61 羽。
< 調査者 > 鈴木静治、間野吉幸、金子雅幸、蒲田知子、船津登、池田日出夫 計 6 名

三 番 瀬 探 鳥 会

9 月 4 日

初めてのキリアイにワクワク！

横尾佳代子

自宅に設置した巣箱にシジュウカラが営巣し、無事に巣立ちを見守ったのをキッカケに野鳥にハマリ約一年。

4 月の葛西探鳥会で色々なシギチを見てから初心者には難しいとされるシギチの魅力にハマってしまった私。稲敷探鳥会に次いで 3 回目のシギチ探鳥会に参加しました。天気予報は生憎の雨、どうなるかと思いつつ駅に着くと既に雨降り。

今日は大変だなと思いつつ現地に着くとまさかの晴れ！共催の千葉県野鳥の会の皆さんとの朝礼を終えて干潟を見渡すと沢山の鳥たちが出迎えてくれました。夢中で双眼鏡を覗きひとり大騒ぎ。しかし秋は幼鳥なども混ざり判別は更に難しく先輩方に色々のご指導頂き本当に助かりました。

干潟から堤防に移動すると「キリアイが居るよ！」との声が聞こえて来ました。初めて聞く名前にワクワクしながら見るとそこにはトウネン、キョウジョシギ、そしてキリアイが！！なかなか観察する機会が少ない旅鳥との事でしたが、長い時間、そして間近で観察する事が出来ました。

そこから反対側の堤防近くにミヤコドリが居ると連絡が入り移動。白黒の羽根に人参のような赤い嘴がとても鮮やかでした。12 時過ぎに昼食をとり全員で鳥合わせ。計 34 種類の鳥を確認する事が出来ました。

途中雨が降ったりもしましたが、沢山の鳥たち、沢山の方々に会えた楽しい探鳥会でした。

ご一緒させて頂いた皆様、先輩方、大変お世話になりありがとうございました。

【幹事報告】

秋の渡りのシギ・チドリとの出会いを求めて、東京湾の干潟、“三番瀬”に出かけました。今回は初めての試みで、三番瀬に最も詳しい、千葉県野鳥の会との交流探鳥会です。日本一のミヤコドリの渡来地である三番瀬では、毎月第一日曜日に日本野鳥の会東京支部との共催で、千葉県野鳥の会の「三番瀬自然観察会」が行われています。

今回は、当会も合流させていただき、三団体が交流する盛大な探鳥会となりました。

探鳥開始前に、日本野鳥の会東京支部の田久保さんより、三番瀬の今昔とその干潟の生き物に関し詳しい説明をいただきました。直近の鳥情報もご紹介いただき、期待に胸を膨らませ、千葉県野鳥の会杉本さんのリーダーの下で探鳥がスタートしました。

早速、オオソリハシギやエリマキシギが迎えてくれました。また、干潟の先の波打ち際にはアジサシ、コアジサシ、ウミネコが群れています。手前の干潟には、ミユビシギやハマシギの群れが干潮になるにつれ増えてきます。その手前を、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼンなどの千鳥たちが走り出したり、立ち止まったり・・・干潟では比較的少ないムナグロの姿も数多く見かけます。

数メートル先の目の前にキリアイとトウネン、そしてキョウジョシギがポーズを取ってくれて暫しの間目を楽しませてくれました。キリアイとトウネンのツー・ショットをほとんど全員が写真に収めることができ大満足です。「背中の V マークの濃さは・・・？」とトウネンなのかヨーロッパトウネンなのか大論争が起こりました。

ミヤコドリがいるとの情報で浜を西の方角に移動しました。10 羽余のミヤコドリがオオソリハシギ、チュウシャクシギなどと食事に夢中でした。

雨が心配された天気でしたが、鳥合わせの時など、瞬間的に雨もありましたが、参加者の日頃の行いが良いせいか天気にも恵まれ、多くのシギ、チドリに出会うことができました。大変充実した探鳥会となり、ご指導いただいた田久保さん、杉本さんに感謝申し上げます。

< 認めた鳥 > キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ムナグロ、ダイゼン、シ

ロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、オバシギ、ミユビシギ、トウネン、ハマシギ、キリアイ、エリマキシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、コアジサシ、アジサシ、ミサゴ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ 計 34 種 番外 カワラバト

<参加者> 田中功、桑森亮、船津登、千葉洋、野倉元雄、小澤淳宏、戸谷輝夫、弘實和昭、多葉田五男、川上貢、間野吉幸、吉田隆行、浅野利幸、大久保陸夫、中西榮子、安藤芳史、横尾佳代子、金子雅幸（会員外）倉光幸司（担当）野口隆也、相良直己 計 21 名

稲敷シギチ探鳥会

9月22日

台風 16 号接近に伴う悪天候のため、本探鳥会は、中止になりました。

（担当幹事） 鈴木静治、松本勝英

第 20 回 野鳥サロン

9月26日

日時 9月26日(月) 9:30~11:55
場所 我孫子北近隣センター並木本館
第3会議室

第20回を迎えた野鳥サロンが9月26日に開催された。直前週末に行われた「あびこ市民活動メッセ2016」の翌日開催となったが、18名が参加し、以下3テーマについての発表のあと熱心な意見交換が続き、定刻を大きくオーバーしての終了となった。参加者のみなさまお疲れさまでした。

テーマ

身近な野鳥の生態と行動・・・（桑森）
ホオジロ、ヒクイナ、オオヨシキリを取り上げ、日常の観察を通して気づいた野鳥の意外な生態を説明（秋に囀るホオジロ、葦原から出て田圃で採餌するヒクイナ、一夫多妻のオオヨシキリのオスの役割と行動）

本の紹介・・・・・・・・・・（千葉）

平岡昭利著『アホウドリを追った日本人 - 一攫千金の夢と南洋進出』

野鳥の羽毛や剥製が高値で輸出されていた明治期、アホウドリのいる無人島を探して太平洋に乗り出した捕獲人による乱獲がもたらした絶滅の危機、そして地政学的観点から見た結果。

クラシック音楽の中の白鳥について・・・（野倉）

ワーグナー、歌劇「ローエングリン」、チャイコフスキー、バレエ曲「白鳥の湖」、サン・サーンス、組曲「動物の謝肉祭」のなかの「白鳥」、シベリウス「トゥオネラの白鳥」に登場する白鳥は、コブハクチョウなのか、オオハクチョウなのか、をはじめいくつかの謎に作曲の背景等から迫りました。

<参加者> 田中功、畠中暁美、間野吉幸、金子雅幸、小玉文夫、川上千里、船津登、関口小夜子、小林博之、小林美智子、青木典子、石井俊子、松村洋子、木村稔、小林千恵子（担当）桑森亮、野倉元雄、千葉洋 計 18 名

あびこ市民活動メッセ

9月24日、25日

我孫子市で活動する市民団体が一堂に会して日ごろの活動成果を発表するイベントが、総合タイトル「市民のチカラ」、発表展示部門タイトル「あびこ市民活動メッセ」として、開催されました。会場は我孫子駅前のけやきプラザ2Fふれあいホールを中心に入口エントランス広場及びアビシルベで、48の市民団体が参加し発表や展示等を行いました。

当会はこのイベントには毎年継続して参加・出展し、当会の活動PRと人と野鳥が共存する環境づくりの啓発に努めています。今回の出展内容は、当会の活動を紹介する大型写真展示、国内外の探鳥会で観察した美しい鳥の写真展示、鳥の名前当てクイズなどを行いました。

当会の活動紹介では楽しいふれあいや探鳥の感動をアピールし、国内、台湾・モンゴルの美しい野鳥写真それぞれ6枚を垂れ幕

式に展示し、来場者の目を引きつけました。

鳥の名前当てクイズは、プロジェクターの野鳥映像を見て名前を当てるゲーム感覚のもので、「クイズに答えて楽しく学ぼう 身近な野鳥」と横断幕を掲示し、参加した方々には野鳥観察を疑似体験するとともに、当会スタッフのガイド・説明により身近な野鳥への認識を深めていただきました。このクイズは一昨年から実施しており、子供たちにも大変人気があります。今回は内容を大幅に改善し、1回のクイズで6枚の写真で名前を当てるパターンを水辺の鳥、山野の鳥から猛禽類まで、初級編3パターン、中級編では5パターンを用意し、参加者のレベルや希望に応じて様々な野鳥を楽しんでもらいました。また、参加者には台湾の美しい野鳥写真カード15種を用意してプレゼントし、皆さん日本で見ることのないカラフルで美しい写真に驚き、喜んで頂きました。

2日間で当会ブースに来られた方は104名、クイズに参加された方は延べ119件で、1人で何件もクイズにトライする方もみられました。全般的には、来場者は出展団体関係者が多いようで、一般市民の皆さんや親子での来場が更に増えるよう、事前の告知・PRに工夫する余地があると感じました。

当会としては、引き続き様々なイベントに参加し、啓発活動に取り組んでいきますので、会員の皆さんも是非ご来場いただきたいと思えます。

2日間にわたり、準備・運営にご協力いただいた会員の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。(担当幹事 桑森記)

9月役員会報告

日時 9月11日(日) 13:00~16:30
場所 我孫子北近隣センター並木本館
第3会議室

出席者数 23名

議事

1. JBF2016 出展について

各ブースの出展計画等について、担当役員の報告・提案に基づき検討し、決定しました。概要は次の通りです。

(1) 出展内容及び役員分担表の確認

- ・前回役員会で決定した出展内容と役員の分担を確認しました。
- ・今年も当会との親交が深い台湾とモンゴルからも出展があり、当会からもサポートします。JBF 開催前日の11/4(金)には「歓迎の集い」を開催します。

(2) 第3回実行委員会の報告

- ・出展配置図、海外からの出展状況と連絡体系、広報チラシ等が紹介されました。
- ・当会の展示ブースの配置は昨年同様「鳥博広場」で、台湾とモンゴルのブースも同じ「鳥博広場」に隣接して設営されます。
- ・今年は「水の館」が改修工事のため、鳥博広場から親水公園までの来場者通路が設置されます。

(3) ブース1「パネル展示」の計画

- ・当会の活動紹介と手賀沼周辺や遠出探鳥会、海外探鳥会で出会った美しい鳥の写真のパネル等で展示します。
- ・美しい写真をテントの前面に出し、通行者から見やすい展示を工夫します。

(4) ブース2「ぬり絵とパタパタ工作」の計画

- ・昨年同様に「野鳥のぬり絵とパタパタ工作」を実施します。

(5) ブース3「庭に鳥を呼ぶ」の計画

- ・テーマを昨年同様「庭に鳥を呼ぶ」とし、鳥の餌となる身近な草木や人工餌、また採餌している鳥の写真も展示します。
- ・草木の標本は生け花方式や吊り下げ式により展示し、フィーダーには小鳥のペーパークラフトを飾るなど、見て楽しめるよう工夫をします。

(6) 湖畔バードウォッチングの計画

- ・昨年同様に河童噴水前展望デッキにテントとスコープを8台程度設置し、来場者にバードウォッチングを体験して貰います。
- ・当会の紹介パネル、観察できた写真等をパネルボードに掲示します。

(7) 船上バードウォッチングの計画

- ・昨年同様に1日3便を運航し、当会会員の船上案内により船上からのバード

- ウォッチングを楽しんで貰います。
- (8) 各種準備物と担当者
- ・各種準備物品、消耗品や備品類とその担当を確認しました。
2. ほーほーどり 253 号掲載予定記事
会報 253 号の掲載記事について検討し、執筆担当等を決定しました。
3. 新規探鳥先検討会について
5 月役員会で提案された新規探鳥先開拓タスクチームの設置を見送り、改めて新規探鳥先検討会等を設置することを決定しました。詳細は「会からのお知らせ」掲載記事をご覧ください。
なお、この活動は今後の状況に応じて変更等が必要な場合には柔軟に対応することにします。
4. 第 21 回「野鳥サロン」について
11/30 (水) 午前に開催予定で、詳細は行事案内をご覧ください。
5. 報告事項
次の事項が報告されました。

あびこ市民活動メッセ出展の準備状況 (9/24,25)

パワーポイントによる野鳥クイズ「この鳥な～に？」の初級編 3 パターン、中級編 5 パターンを作成しており、写真等の展示も行います。
宿泊探鳥会でのキャンセル料の取り扱いについて
現状での問題を踏まえ、野鳥関連団体の事例を参考に、事務局でキャンセル時の取り扱いルール案を作成し、次回役員会で議論することにしました。

対外活動状況
事務局報告事項
柏市民活動サポート・コーナーよりの募集案件について
柏市民活動フェスタ & ぼかぼか市 2016 への参加募集案内 (11/23) が来ていますが、当会としては JBF に注力するため参加しないことにしました。

以上

寄稿

～手賀沼・手賀川のコブハクチョウ～

鈴木静治

1. コブハクチョウについて

コブハクチョウの名前は成鳥の上嘴の基部に黒い瘤状の突起に由来しています。瘤は よりの方が大きいようで、あまり鳴かないので英名は Mute Swan (鳴かない白鳥)、学名は *Cygnus olor* (白鳥中の白鳥) で、デンマークの国鳥です。チャイコフスキーの白鳥の湖、アンデルセンのみにくいアヒルの子のモデルとなっています。手賀沼のコブハクチョウの幼鳥はほとんど白色型で、みにくいアヒルの灰色型は少ないようです。白色型になるか灰色型になるかは親鳥の脚の色 (黒色、肌色) を見れば判ります。メンデルの法則に従うようです。黒色 × 肌色の脚の親からは灰色、白色の雛が同数生まれ、肌色 × 肌色の脚の親からは白色の雛が生まれています。イギリスでは 13-18 世紀王室の財産とされていました。欧州の美しい湖、池で見られる白鳥はコブハクチョウが多いようです。コブハクチョウはアジアではモンゴル、バイカル湖東岸、ウスリー川流域で繁殖し、アジア南西部で越冬します。朝鮮半島も越冬地なので、迷鳥として野生の個体が日本に来る可能性があります。日本には八丈島に飛来記録、1984 年の標識調査で北海道のウトナイ湖から霞ヶ浦の北浦に渡りをした記録があります。今では手賀沼、手賀川でコブハクチョウが沢山見られるのが当たり前となっていますが、1987～

1990年1~4羽はじめて飛来し、1991年以降多くなり、現在百羽以上が生息しています。餌は水生植物の葉状部を主食とし、茎、根、芽なども食べます。蛙、小魚、水生昆虫なども食べるようです。また手賀沼、手賀川の公園、河原ではアカツメクサ、シロツメクサの葉を食べているのをよく見ます。巣を造る前の求愛行動のときに2羽が嘴と胸をくっつけ、ハート型に見えるということで、よく話題になります。3月下旬から4月に協力して、水際か葦、蒲の中州に、葦の茎や根などを山のように積み上げて底の直径2.5m位の大きな巣を造ります。巣は台形状で上部にある産座には綿羽が敷き詰められます。そこに350gの卵(鶏の卵60g)を1日おきに5~6個(最高12個)くらい産みます。手賀川、手賀沼の1巣産卵数は見ることは出来ませんが、孵化した雛の数では1~8羽となっています。産卵数は番の経験年数、食料状況などにより変わるのではないかと考えられます。なお、川、沼の水位が低い時営巣し、田植えのために北千葉導水場で流す水量を増し、水位が上がる時は、水没する巣もありその巣は放棄されます。その後近くに再度巣が造られることもあります。が35~36日抱卵し、孵化後雛は1~2日巣にいますが、5月中旬にはは雛を連れ叢に導き、が先頭になり1~8羽の雛を従えがしんがりを務め、一列縦隊で川中を泳ぐ光景が見られます。この頃は雛が可愛く、ほほえましい光景なので、カメラを向ける人が多くなります。しかしは巣や雛に近づく者に対して首を伸ばしシューと鳴き激しく威嚇します。コブハクチョウの体重は約10kgあるため、迫力があり、大人でも圧倒され、幼児では危ない場合もあります。また子育て中のコブハクチョウは縄張り意識が強く、番以外のコブハクチョウが縄張りに入ると威嚇し追い出します。で育雛し、雛が飛べるようになるまで120~150日(9~10月頃)かかります。成鳥になるまで、オオハクチョウでは3年かかると言われていますので、コブハクチョウも同じくらいと考えられます。ここ数年、手賀川、手賀沼のコブハクチョウの営巣場所を見ていますと、ほぼ同じ場所であること、子連でない番がいつも一緒に自分の縄張り内を行動していることを考えますと、番は一方が亡くなるまで続くのではないかと考えられます。なおコブハクチョウは移動性の野生動物種の保護に関する条約「ボン条約」附属書掲載種になっています。

2. 今年2016年の子育て

2016年は4/2、4/9、4/16、4/24に手賀川、手賀沼で12カ所の巣で抱卵しているのを確認したが、5/20、5/28、6/1に雛が孵った巣は9カ所で雛41羽(手賀川26羽、手賀沼15羽)でした。7/2、8/8には雛29羽(手賀川19羽、手賀沼10)確認しました。この時は手賀川で孵化した4羽が見られなかったのですが、8/19に手賀川にいることを確認しました。8/27現在手賀川では巣Aで孵化した8羽のうち1羽(白色)が孵化後1週間以内にいなくなり、さらに1羽(灰色)が1カ月の間に見えなくなり、残りの6羽(白色3灰色3)は親鳥と同じ大きさに成長しています。また巣Bで孵化した8羽の雛は1羽(灰色)が1カ月の間に見えなくなり、残りの7羽(白色3灰色4)が成長しています。巣Cの5羽(白色)、巣Dの1羽(白色)、巣Eの4羽(白色)は孵化した全数無事成長しています。手賀川では孵化した8割以上(23/26=0.88)が成長していることになります。孵化後1週から1カ月の間に3羽いなくなりましたが、川原に生息するイタチまたはタカ、カラス等に襲われたか、食料が上手く取れずに衰弱したか、病気になった

かは判りません。これらのハクチョウの親子は水草、アカツメクサなどを採食している光景を見ますが、各巣周辺では各々特定の人、釣り人などが夕方、餌を与えているようです。手賀沼と手賀沼近くの手賀川の巣Eで孵化した家族は、手賀沼と手賀川の間を行き来しています。手賀沼の巣で孵化したコブハクチョウはヒメガマの茂みに入ったりして見えなかったりして十分数えられなかった可能性があります。それでも 8/8 には 33 羽の雛を確認しました。手賀川の 8 割以上の成長を考えると、雛はもう少し多い 36 羽($41 \times 0.88 = 36$)程度生息していると思われま

3. 手賀川、手賀沼の生息数

2011.8.8 調査では 92 羽(うち雛 19 羽)、今回 2016.8.8 調査では 126 羽(うち雛 33 羽)でした。手賀沼は 2011.8.8 調査時(前回) 48 羽が 2016.8.8 調査、一部調査時(今回)は 21 羽と少なくなり、手賀川、下手賀川は前回 44 羽が今回は 105 羽と多くなっています。特に下手賀川の「発作橋」から「手賀干拓一の橋」の間に繁殖しない若鳥が 76 羽と多く群れています。ここに多いのは、発作橋で餌を夕方、与えているため集まるようです。雛(若鳥)の親離れ時期、これから後、手賀沼、手賀川のコブハクチョウが増えるのか、またはトコロテン式に増えた分だけ移動、渡りをするのか興味あるところです。今後も時々調査をしたいと思っています。なお 2016.8.8 の手賀沼のデータは手賀沼定点カウント数を使用しました。「1.コブハクチョウについて」の記載は世界鳥名辞典(吉井正監修 2005 年)、日本鳥類大図鑑(清棲幸保 1979 年)、ひと目でわかる野鳥(中川雄三監修 2010 年)などを参考にしました。以上

訃報

当会会員 OB の中野久夫さんが 8 月 25 日にご逝去されました。

中野さんは長年当会役員を務められ、当会の写真データベースにも同氏の作品が数多く収められています。マナーに厳しくも活動的で温かい人柄の先輩でした。

ここに故人のご冥福を心よりお祈りし、謹んでお知らせいたします。

故中野久夫氏を偲ぶ

木村 稔

昨年、外出中に怪我をされ自宅で療養されていましたが、8 月 25 日に亡くなられました。

中野さんは 1998 年から、ほぼ毎日、倒られるまで北新田の野鳥観察を行い報告されてきました。おかげで我孫子の鳥類の貴重な記録が残りました。現在も大勢の仲間によって引き継がれています。コウノトリを北新田で発見されたのは、そのご褒美だったのでしょう。勤勉な方でしたが探鳥旅行ではバスの休憩の度にアイスクリームを食べること、私と中野さんだけが下戸でさっさと寝てしまうことなど、お人柄を思い出すことがたくさんあります。大変お世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。

鳥 だ よ り

夏は鳥も涼しい所へ避難して、めっきり少なくなってしまう。今年の夏も暑かったですね。鳥だよりの数も少なくなっていました。

そんな中、8月15日にアカガシラサギが、23日にはコグンカンドリが観察できたとの報告があり話題を呼びました。いつも観察していないと見つけれない鳥たちです。見つけた人の興奮が伝わって来ますね。

8月になり、チュウサギ、ダイサギの中に亜麻色のアマサギも観察できるようになりました。オナガガモ、コガモ、ユリカモメなども観察されています。暑い日が続きましたが、冬の鳥たちも少しずつ見え始めて来ました。

ショウドウツバメが遊歩道上空を飛び交っていました。ヨシゴイは、成鳥に加えて若鳥の姿も確認されています。いよいよ手賀沼の鳥たちも賑やかになって行く季節ですね。

- | | |
|---|---|
| 7.16[中峠]サシバ(2) ヒナと親とでカラスと
定位置の枯れ杉を巡って2対2でバトル
松本勝英 | 8.08[手賀沼辺]サシバ(1)下沼地区 1
金子雅幸・桑森亮・船津登 |
| 7.22[戸張新田]ハヤブサ(1) 鉄塔 95 上部に止
まっていた。 吉田隆行 | 8.09[片山(手賀の丘公園)]ヤマガ(1)
船津登 |
| 7.24[柏市]ツミ(1)成鳥雄が鳴きながら枝に飛
来 飯泉仁 | 8.09[手賀沼遊歩道(岡発戸新田)]サシバ(4)
遊歩道から水田、斜面林上空を飛翔
桑森亮 |
| 7.25[柏市]ツミ(1)成鳥雄が足に捕獲した小鳥
をぶら下げて飛来 飯泉仁 | 8.09[手賀沼遊歩道(岡発戸新田)]ヒ(1)
斜面林から出て水田に降り、その後電柱
に止まる 桑森亮 |
| 7.26[上沼]ヒ(1) ミサゴの止まる杭で休息
吉田隆行 | 8.09[鷺野谷新田]チョウゲンボウ(1) 上空を飛び、
ルビツガラス3羽がモビング 船津登 |
| 7.27[片山(手賀の丘公園)]ヤマガ(1)
船津登 | 8.10[古戸]ハヤブサ(1)葦原上を滑空する
鈴木静治 |
| 7.28[古戸]ヨシキリ(3) 葦原の茂みで囀る、
時々高い葦の上に止まる 鈴木静治 | 8.12[酒井根 6 丁目下田の森]ヤマガ(1)
林縁を鳴きながら移動 飯泉仁 |
| 7.28[鷺野谷新田]チョウゲンボウ(1) 電線に止ま
り水田に下りて、その後林に入る
船津登 | 8.12[手賀の丘公園]ヤマガ(10)林の上部で採
餌中 吉田隆行 |
| 7.29[鷺野谷新田]サシバ(1)電柱に止まる
船津登 | 8.12[戸張新田]ハヤブサ(1)鉄塔 96 上部に止ま
っていた。 吉田隆行 |
| 8.04[中峠]クササギ(1)水路にて 松本勝英 | 8.15[北新田]アカシヤサギ(1)2号排水路傍
畠中暁美・松田幸保他7名 |
| 8.04[中峠]アカガ(1)斜面林沿道にてドラミン
グ 松本勝英 | 8.15[片山(手賀の丘公園)]ヤマガ(1)
船津登 |
| 8.04[呼塚新田(北柏ふるさと公園)]コムドリ
約100羽が、いくつかの群に分かれて木
で採食、水溜りで水浴び、水飲み
船津登 | 8.15[北新田]ヒ(4) 飛翔
畠中暁美・松田幸保他7名 |
| 8.04[岡発戸新田]ヒ(1)上空でルビツガ 4
羽にヒツグされる
鈴木静治・船津登・間野吉幸他2名 | 8.15[北新田]ノスリ(1) 電柱に止まっていた
畠中暁美・松田幸保他7名 |
| | 8.15[北新田]チョウゲンボウ(1)飛翔
畠中暁美・松田幸保他7名 |

- 8.19[片山新田]比³(3)電線に止まる、真ん中のトビは、色が白ばい幼鳥、ルホ¹ガ²ラス²羽が幼鳥にちょっかいをだすが、幼鳥は、動じない 船津登
- 8.20[片山]ヤマガ¹ラ(1)手賀の丘公園駐車場脇のフェンスに飛来 飯泉仁・飯泉久美子
- 8.20[布瀬新田]比²(2)上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 8.23[白山山地]カ¹カド¹リ(1)手賀沼杭上で休む 百瀬喬
- 8.23[片山(手賀の丘公園)]ノ¹リ(1)桜の木に止まる 船津登
- 8.25[浅間前]ヲ¹ウ¹ノ¹ウ(1)稲田中の大木より飛び立つ 鈴木静治
- 8.26[発作]比³(3)川の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 8.28[布佐平和台]オ¹カ¹(1)森の上を飛ぶ 鈴木静治
- 8.28[布佐平和台]ヲ¹ウ¹ノ¹ウ(1)住宅の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 8.29[片山(手賀の丘公園)]ノ¹リ(1)桜の木から飛び立つ 船津登
- 8.29[片山(手賀の丘公園)]サ¹コ¹ヲ¹ヲ¹ウ(1)イガ¹の群の近くで、杉の木の中で動く 船津登
- 8.29[片山(手賀の丘公園)]ヤマガ¹ラ(1) 船津登
- 9.01[岡発戸新田]比³(3)上空高く飛ぶ 鈴木静治・船津登・間野吉幸他3名
- 9.01[岡発戸新田]ノ¹リ(1)稲田の上空を飛ぶ 鈴木静治・船津登・間野吉幸他3名
- 9.03[手賀沼辺]比¹(1)上沼地区1 金子雅幸・桑森亮・船津登
- 9.03[手賀沼辺]ノ¹リ(1)下沼地区1 金子雅幸・桑森亮・船津登
- 9.05[片山(手賀の丘公園)]ツ¹ド¹リ(1)飛来して木に止まる 船津登
- 9.05[片山(手賀の丘公園)]ノ¹リ(1)桜の木から飛び立つ 船津登
- 9.05[片山(手賀の丘公園)]ヤマガ¹ラ(2)杉の木で動く 船津登
- 9.07[東中新宿]サ¹バ¹(1)上空を東方向から北方向に飛翔し移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.08[布佐平和台]ヤマガ¹ラ(1)鳴き声が庭より聞こえる 鈴木静治
- 9.09[江蔵地]ミ¹ガ¹(1)川岸の木に止まる 鈴木静治
- 9.12[片山(手賀の丘公園)]ツ¹ド¹リ(1)飛んで来て桜の木に止まる 船津登
- 9.12[片山(手賀の丘公園)]比¹(1)上空を飛ぶ 船津登
- 9.12[片山(手賀の丘公園)]ヤマガ¹ラ(5) 船津登
- 9.14[大井新田先手賀沼]比¹(1)カ¹スに追尾され上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.14[片山新田先手賀沼]ノ¹リ(1)林縁を飛翔し電柱に止まった 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.14[片山新田先手賀沼]比²(2)ノ¹リを追尾し出現 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.14[片山新田先手賀沼]ノ¹リ(1)上空を飛翔し電柱に飛来 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.16[新柏1丁目]ヤマガ¹ラ(3)ヤマガラ¹の声。エゴノキからエゴの実をとって、向かいの木に飛んで行き、そこでコンコンと調理しているようです。一瞬でしたが、3羽、エゴノキに入るヤマガラが見えました。 中西榮子
- 9.16[北新田]カ¹サ¹キ¹(1)4号排水路から飛び立った 畠中暁美・松田幸保他7名
- 9.16[北新田]ヲ¹ウ¹ノ¹ウ(2)電柱に止まっていた、飛翔 畠中暁美・松田幸保他7名
- 9.16[北新田]比³(3)電柱、田んぼ 畠中暁美・松田幸保他7名
- 9.18[光ヶ丘広池学園]サ¹バ¹(1)南方向から出現し北北西方向に移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.19[片山(手賀の丘公園)]ツ¹ド¹リ(1)桜の木の間に飛ぶ 船津登
- 9.19[片山(手賀の丘公園)]ヤマガ¹ラ(4)杉の木で動く 船津登
- 9.21[曙橋]ノ¹リ(1)手賀沼上空を帆翔 桑森亮

今回寄せられた鳥の全種名

アオサギ、アカガシラサギ、アカゲラ、アジサシ、アマサギ、イソシギ、ウグイス、ウミネコ、エナガ、オオタカ、オオバン、オオヨシキリ、オナガ、オナガガモ、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キジ、キジバト、クサシギ、コアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コグンカンドリ、コゲラ、コサギ、コチドリ、コブハクチョウ、コムクドリ、コヨシキリ、サシバ、サンコウチョウ、シジュウカラ、ショウドウツバメ、スズメ、

セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、タシギ、チュウサギ、チョウゲンボウ、ツツドリ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハヤブサ、バン、ヒバリ、ヒヨドリ、フクロウ、ホオジロ、ミサゴ、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシゴイ 以上 65 種
 <番外種> カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

吉田隆行	20
金子雅幸・桑森亮・船津登	40
桑森亮	60
百瀬喬	1

松本勝英	6
船津登	97
中西榮子	1
畠中暁美・松田幸保他 5 名	1
畠中暁美・松田幸保他 7 名	46
飯泉仁	104
飯泉仁・飯泉久美子	100
鈴木静治	261
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸	19
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸・蒲田知子	17
総計	773

(弘實和昭)

会員だより (ab-yacho より)

【中峠のサシバその後】

2016.08.04 松本勝英

中峠のサシバは、巣立ちしたヒナは結局 1 羽しか目視できませんでした。

7/17 そのヒナと、親(、未確認)とがカラスと定位置の枯れ杉を巡って 2 対 2 でバトルして以降、18 日を最後に居なくなってしまいました。聞いた話では、その時期には、「餌条件の良い処へ」一時的に移動するそうですが、それから半月経ちますが、まだ戻っておりません。

【7/20 以降の野鳥観察記録】

2016.08.20 桑森亮

- ・オオヨシキリは 7 月 20 日過ぎには囀りがほぼ終わり地鳴きに変わりましたが、8 月中旬になっても葭原の中から小さなギョギョシの声が聞こえます。今年は遅くまでギョギョシと鳴くような気がします。
- ・8 月 10 日にショウドウツバメが遊歩道上空を飛び交うのを観察しました。
- ・サシバが岡発戸の森上空を複数で飛翔するのを観察しました。今年生まれの若鳥も混じって渡りに備えているのでしょうか。

【手賀川周辺のチュウサギの壱、アマサギも来始めました】

2016.08.21 鈴木静治

布佐周辺の田では稲穂が垂れ始め、子育てを終えたチュウサギが田で見られるようになってきました。また手賀川の千間橋では早朝に偽装船上に、チュウサギ、ダイサギの中に亜麻色のアマサギも 8/9 以降観察できるようになっています。なお夕暮れ時、8/19 頃から発作、千間橋の葦原に 50 羽程度のチュウサギを中心にした壱が見られるようになっています。壱の中には水辺にダイサギ、コサギ、ゴイサギ、休む亜麻色のアマサギも観察出来ます。曙橋は葭原の中の大木に止まる 30 羽程度のチュウサギが観察できました。これから秋にかけて渡りまで、壱の鷺の数も多くなりますので、夕刻の鷺の壱入りが楽しみです。

【ヤマガラが来ました】

2016.09.21 中西榮子

3 日ほど前から、ヤマガラの声が聞こえていたのですが、姿を確認することが出来ませんでした。今朝、コンコンと木の実を叩くような音がしましたので、ベランダに出てみましたら、居ました！ヤマガラが。向かいの植え込みの中に。ベランダ近くのエゴノキからエゴの実をとって、向かいの木に飛んで行き、そこでコンコンと調理しているようです。一瞬でしたが、3 羽、エゴノキに入るヤマガラが見えました。

【満月にフクロウの鳴き声】

2016.09.18 船津登

昨夜(9/17)9時過ぎ、星空を見ようと外に出ました。外に出ると奇妙な鳴き声が聞こえ、猫の鳴き声と違うと思いながら見ると、隣家のTVアンテナに黒い大きな鳥の姿がありました。双眼鏡を取りに行こうとしたら、飛び立ちました。飛ぶ姿、シルエットの大きさ、形からしてフクロウと思われます。フクロウが、「ホーホー」と鳴く以外に鳴き声を聞くのは、初めてで、美しい満月も見られ、良い夜でした。(場所：柏市五條谷)

【市原にコウノトリ飛来】

2016.09.18 多葉田五男

鳥友から市内の田んぼにコウノトリが飛来しているとの情報あり、駆け付けました。足環から今年野田市「コウノトリの里」から6/4放鳥された2羽の中の1羽「きずな」君でした。

会からのお知らせ**<新規探鳥先検討会の設置及び新規探鳥先に関する希望・意見の募集について>****・新規探鳥先検討会の設置**

平成28年度の事業計画では、当会活動の原点である探鳥会を更に魅力的なものとするため、新たな探鳥先の検討、開拓をめざすとしていますが、この具体的方策として、今般、新規探鳥先検討会を設置することにしました。

この検討会では、普段なかなか行けない遠方の探鳥地など、新しい遠出探鳥先の総合的な検討を行い、候補地を役員会に提案し、探鳥会の是非を役員会で決定します。その後、探鳥計画を具体化し、先ずは有志探鳥会として公式行事に準じた形で実施します。

なお、この有志探鳥会は、当会のメーリングリスト ab-yacho で案内するとともに、会報の「お知らせ」でも告知することとします。

・新規探鳥先に関する希望・意見の募集

この検討会の設置、運営に先立ち、新規探鳥先に関するご希望やご意見を会員の皆さまから募集しますので、事務局の桑森(Tel/Fax 04-7182-3149、E-mail: r-kuwamori@jcom.zaq.ne.jp)まで11月末日迄にお寄せ下さい。

また、探鳥先候補地は会員なら誰でも上記検討会に提案できることとしますので、具体的な提案がある場合は、事務局桑森までお知らせ下さい。

<新入会員> 8、9月の新入会員はありませんでした。

ほーほーどり No.253 (2016年11~12月号)

発行 2016年11月1日

発行人 間野吉幸

編集人 青木典子、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、千葉洋、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270 1143 我孫子市天王台2-15-17 桑森亮 Tel: 04 7182 3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料)